

## 経済学部 教員の養成の目標

### <経済学部 経済学科>

経済学部経済学科では、国際化と情報化の進展する現代にあって、家計（国民）、企業、政府・地方自治体、外国（世界）の間で行われるヒト、モノ・サービス、カネの取引（経済活動）とそれらを結びつける市場の役割や経済社会の仕組み、さらに経済社会の中で行われるさまざまな経済活動を分析する手法を学び、これらの経済学の基本原理を活かして、国際社会と地域社会に生じる多様な問題を総合的に理解し、経済社会の課題発見や望ましい経済社会の在り方を考え、その解決に向けて積極的に貢献することのできる人材の育成を目指している。この教育理念のもと、(1)社会に生じる多様な問題を総合的に理解できる幅広い教養を有し、それらの問題の解決策を経済学の立場から提示できる、あるいはその内容について経済学の基本原理及び専門知識を活用し理解できる技能、(2)経済学に関する幅広い知識を活かして溢れる情報の中から真に必要な情報を取得する能力、グローバルな視野を持って時代を切り拓くための国際性を身に付け、さらに、いかなる状況の変化に対しても深い洞察力を持って問題解決に向け「考動」できる能力、(3)自身の役割に責任を持ち、他者と協働しながら経済学を体系的に修得し、経済が直面する課題を自ら発見し、その解決に向けて主体的に取り組み、社会に積極的に貢献しようと努力する態度をそれぞれ身に付けるとともに、教科及び教職に関する体系的な教職課程カリキュラムの履修を通じて、教科指導及び生徒指導等における実践的指導力並びにそれらを下支えする強い使命感、教育的愛情、コミュニケーション力等、教師に求められる人格と力量を兼ね備える、豊かな感性と個性を持った教員を養成する。

**(経済学部 経済学科 中一種免 社会)**

基礎となる学部専門教育において、下位年次の入門的な科目及び基本科目を通して経済社会の仕組みや経済活動を分析する手法並びに経済学を読み解くうえでの基本ツールとしての基礎知識・基礎能力を確実に習得したうえで、3年次以降、経済学が扱う多岐にわたる分野のなかから、各々の関心と目的に沿って4つのコースに所属し、そこで自ら選んだ関心分野の専門知識を系統的に学びながら専門性を追及するカリキュラムを編成している。具体的には、経済学のさまざまな分野を4つに分類し、経済政策コース（財政政策、金融政策、社会保障といった公的な課題の理解を深めその解決策を考える）、歴史・思想コース（過去の経済社会を知ること、現代社会がかかえる経済問題の新たな解決策を模索する）、産業・企業経済コース（企業の経済活動を中心に学び、ビジネスの現場で起きているさまざまな現象の本質を読み解く）、国際経済コース（海外との経済活動を中心に学び、ヒト、モノ・サービス、カネが国や地域をこえて移動するグローバル社会を考察する）、以上4つのコースに所属し、実社会の課題を見つけ経済学を使ってその解決策を考える実践に取り組み、座学で学んだ知識が実社会の課題解決にどのように役立つかを学ぶとともに、その実践に欠かせない主体性や実行力並びに論理的な思考力、問題の分析と解決能力を養成している。これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、中学校「社会」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)わが国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

**(経済学部 経済学科 高一種免 地理歴史)**

基礎となる学部専門教育において、下位年次の入門的な科目及び基本科目を通して経済社会の仕組みや経済活動を分析する手法並びに経済学を読み解くうえでの基本ツールとしての基礎知識・基礎能力を確実に習得したうえで、3年次以降、経済学が扱う多岐にわたる分野のなかから、各々の関心と目的に沿って4つのコースに分属し、そこで自ら選んだ関心分野の専門知識を系統的に学びながら専門性を追及するカリキュラムを編成している。具体的には、経済学のさまざまな分野を4つに分類し、経済政策コース（財政政策、金融政策、社会保障といった公的な課題の理解を深めその解決策を考える）、歴史・思想コース（過去の経済社会を知ること、現代社会がかかえる経済問題の新たな解決策を模索する）、産業・企業経済コース（企業の経済活動を中心に学び、ビジネスの現場で起きているさまざまな現象の本質を読み解く）、国際経済コース（海外との経済活動を中心に学び、ヒト、モノ・サービス、カネが国や地域をこえて移動するグローバル社会を考察する）、以上4つのコースに分属し、実社会の課題を見つけ経済学を使ってその解決策を考える実践に取り組み、座学で学んだ知識が実社会の課題解決にどのように役立つかを学ぶとともに、その実践に欠かせない主体性や実行力並びに論理的な思考力、問題の分析と解決能力を養成している。これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、高等学校「地理歴史」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う、(3)地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、わが国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。

**(経済学部 経済学科 高一種免 公民)**

基礎となる学部専門教育において、下位年次の入門的な科目及び基本科目を通して経済社会の仕組みや経済活動を分析する手法並びに経済学を読み解くうえでの基本ツールとしての基礎知識・基礎能力を確実に習得したうえで、3年次以降、経済学が扱う多岐にわたる分野のなかから、各々の関心と目的に沿って4つのコースに所属し、そこで自ら選んだ関心分野の専門知識を系統的に学びながら専門性を追及するカリキュラムを編成している。具体的には、経済学のさまざまな分野を4つに分類し、経済政策コース（財政政策、金融政策、社会保障といった公的な課題の理解を深めその解決策を考える）、歴史・思想コース（過去の経済社会を知ること、現代社会がかかえる経済問題の新たな解決策を模索する）、産業・企業経済コース（企業の経済活動を中心に学び、ビジネスの現場で起きているさまざまな現象の本質を読み解く）、国際経済コース（海外との経済活動を中心に学び、ヒト、モノ・サービス、カネが国や地域をこえて移動するグローバル社会を考察する）、以上4つのコースに所属し、実社会の課題を見つけ経済学を使ってその解決策を考える実践に取り組み、座学で学んだ知識が実社会の課題解決にどのように役立つかを学ぶとともに、その実践に欠かせない主体性や実行力並びに論理的な思考力、問題の分析と解決能力を養成している。これらの系統立てた学びの中で豊かな教養と高度で深い専門的学芸を学位プログラムとして修めており、高等学校「公民」の教職課程では、その学位にふさわしい高い専門性と知識能力を基盤としながら、(1)選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料からさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする、(2)現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う、(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めるなど、社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成できる質の高い教科指導力を有し、総合的な学習の時間、生徒・進路指導及び学校経営・学級経営においてもこれらの学問的独自性と教育の特色を活かした専門性開発により、学校現場においてリーダーシップを発揮しうる教員を養成する。